続いた二十年の友情

「美浦 横越」姉妹村盟約書に調印

スッキリともに発展を

盟約書を取り交し、堅い握手で友情は一段と深まった。

茨城県美浦村との青年交歓研修会は、二月十四日から二泊三日の日程で美浦村を会場に開催され、本村から渋谷村長、浅見議長、田中教育長のほか青年団等一行三十六名が訪問しました。今回の交歓研修会の最も大きな行事としては、姉妹村締結の調印が行なわれたことです。

両村最初の交歓会は、昭和三十六年二月青年学級の交歓会が縁で、以来今年で丁度二十年目。その間、青年団、婦人会、議員、教員など延べ二十一回に及ぶ交歓会が繰り返され、結びつきは年を追って堅くなり、青年たちの間では個人的な交流も数多くもたれてきました。

姉妹村調印式は、二月十四日美浦村役場で美浦村長はじめ村関係者、多くの青年たちの歓迎を受けるなか、席上、桑名美浦村長から「これでやっとスッキリした形でお付き合いができます。相互発展に頑張りましょう」と、渋谷村長からは「今後もより一層姉妹村として、あらゆる分野における関係を深め、両村発展に努力しましょう」と力強い言葉を交したあと、姉妹村盟約書に両村長と両議長が署名調印しました。

交歓研修会は美浦村にある中央競馬トレーニングセンター、土浦予科練記念館、筑波大学学園都市などの視察や、民泊先での家族との話し合い青年相互の話し合いを行い、十六日帰村しました。

固定資産課税台帳縦覧のおしらせ 3月1日～20日

この縦覧は、固定資産税の納税者に、この税金の基となる課税標準価格等を知ってもらい、その価格等について不服がある場合に、固定資産評価審査委員会に対して、審査の申し出をすることができる機会を与え納税者の権利・利益を救済しようとする制度です。年一回この機会にご自分の資産を確認してください。

また新たに家屋を新築、改築された方や土地などを売買された方は、是非縦覧されるようお奨めします。

期日　三月一日から三月二十日まで（日曜、土曜の午後は除きます）

場所　役場税務課

創立三十周年を迎えた婦人会総会

今年創立三十周年を迎える横越村連合婦人会の総会が、二月二十二日公民館で渋谷村長、田中教育長、山崎公民館長等を来賓に招いて開かれました。

あいにく雪の降る寒い日でしたが、会員三百余名が集りました。あいさつに立った佐久間会長は「婦人会創立三十周年にあたり、今年は記念行事として五月三十日、三十一日埼玉県国立婦人会館で交流研修会を計画しているので、できるだけ多くの参加を。またみんなで手をつなぎ、大きな「和」をつくり明るい村づくりを、そして次の時代を担う子どもたちを守り、健全な青少年を育てる力を、皆さんとともに養う婦人活動でありたい」と述べ、創立三十周年を迎えた婦人会活動の役割を強調されました。

総会議事に先立ち、永年地区役員として活躍された原ムツ、北上ヒョシ（二本木）、入山ミイ、藤田キヨイ（川根谷内）さんらが表彰を受け、感謝状と記念品が贈呈されました。なお、議事は、原案通り承認されました。

総会終了後は、渡辺宏新津保健所長から「家族の健康管理」について記念講演と、各地区からの民踊披露や福引等のアトラクションで楽しくすごされました。

校歌

三月の声を聞くと、すぐ、卒業式と頭に浮かぶ。そして、新たな旅立ちに進む若人に「頑張れよ。」と声援を送りたくなる

人間は〝社会的動物〟と云われる様に集団の中に生きているが、これは他の動物が本能的に群集しているのとは若干異なって精神的な繋がりや、利潤追求等様々な集団の種類がある。学校、職場も、しかりであるが、その諸集団の一番基礎で、最も重要なものは〝家族〟であると思う。人は皆、出生と同時に自動的に家族の成員の一人となり成長していくのである。パーソナリティ（人格）形成に一番影響のあるのは乳児期である。白紙の状態で生まれた赤ん坊は無意識のわけの分らないながらも家の中の行動を経験し、その経験の積み重ねによって、その子供の性格が出来上り、成長しつつ社会の中に旅立って行くのである。

最近、家庭内暴力とか、校内暴力等青少年の暴力行為がテレビや新聞等に大きく取り上げられ、行政の面でもこの対策に頭を痛めている事は非常に憂いる事であると思うのは小生一人ではないと思う。その原因はいろいろあると思うが、恥を忘れた社会の風潮が上げられるのではないだろうか

そして父親の無力、母の溺愛により、わがままな性格の子供が出来、忍耐力のない子供が問題を起すのではないかと思う。それには親の責任もないわけではない。物質的な愛情が先行し精神的な教育はどうか?。子供に対して過剰な期待をしていないだろうか?と思う時、その責任を認めざるを得ない。しかし、子をもつ親として、やはり子供の成長を願うのは親の常である。子供も又親以上に優れた人間になるべく努力している事だろう。苦しみはその時代にあった苦しみである。それを乗り起える事の出来ない者はどんな社会に出ても駄目であると云う事を胸に新しい社会にはばたく事を期待する。

（山崎）

勉学に、部活に充実した中学生活を

—133名が中学校へ—

中学校へ入学する六年生、一三三名とその父兄を対象に中学校入学オリエンテーションが、二月二十日小学校で開かれました。

「これは住みなれた小学校生活から、大きく変る中学校生活にスムーズにとけこんで勉強や部活動等になじみ充実した中学生活に」ということで中学校から水沢教頭先生、教務主任の大野先生、生活指導の佐々知先生が出席して、中学校入学前の準備、中学校の様子、中学生生活のあり方入学式の日程などについてお話しがありました。

中学校生活は、小学校の統合後、友だち関係は、小学校の延長ということでさほど問題にすることはないにしても中学校は、教科によって担任の先生が替ること、定期テストがあること、英語の教科があること。部活動があること服装や身なり、持ち物などがきびしく規制されていることなど小学校生活にない生活があることが話され、子どもたちも集ったお母さんたちも真険なまなざしでききいっていました。

女子生徒から、髪型はどうしたらよいのですかなどの質問が出され、早くも中学校生活に大きな夢をふくらませていました。

中学生になったら、より自主性を養ない自分の行動に責任をもち、勉強・部活動にも目標を定め、部活やスポーツで心身をたんれんし、充実した中学生活にしてほしいと思います。

中学生活に希望を抱いて

≪横中弁論大会より≫

部活について思う

1年2組　本間由美子

「あーあ、部活に行きたくないな。」というなまけ心はだれもがもっていると思います。ただ、そのなまけ心に負けてしまう人がいると思います。入学前は、わたしもそのなまけ心がありました。絶体に行かなければいけないという気持ちがなかったからだと思います。じゅくも、そんな気持ちからやめた所もありました。

その反対に、部活は絶体に行かなければいけないという気持ちがあるせいか、病気をしない限り、毎日通いつづけています。

今までなぜ、〝絶体にいかなければいけない〟と思っていたかというと、どういう意味で部活があるのかもしらずに、ただ、今までとはちがうんだという気持ちと、影ながらの競争心があったからだと思います。

でも今は、部活の本当の意味が少しずつわかりかけてきたのです。それは、ある先生が、「学校は、勉強と部活をやりにくる所だ。」とおしゃいました。

わたしは、その先生のそのことばから、ヒントをうけてわかりました。

部活というのは、ただの遊びだけでやっているのではないし、大会で勝つことだけが、目標ではないということを。部活も、机に向ってする学習とはちがった、勉強ではないでしょうか。

従って、部活をさぼる人は学校の勉強をほうきしたことになるのでは、ないでしょうか。

三年間、やりつづけられる自信があったし、好きだから入部したのに。うわべだけのかっこよさで、部活をきめてはいけないと思います。

でも、わたし自身、こんなことはいえない身だと思います。ただ、もう二度とこんなことをしてもらいたくないからです。

というのは、四月のかり入部の時です。わたしと、友達は違う部を見学しました。帰りに友達の見学している部によってみました。

そのうち、なんとなく友達の部活がよくなってきて一時は部活を決めてしまいました。

でも、日がたつにつれてただのあこがれだけにすぎないことに気づき、いろいろ考えて、今の部活にかえました。

今、考えてみると、早く気づいてよかったなあと思っています。

部活では、いろいろなことを学びました。どんなに苦しいことでも、最後までやりとげられるようになってきたように思います。

わたしのこんな例をあげましたが、部活では、まだまだ学ぶことがたくさんあると思います。今、がまんして部活に通いつづければ三年生になってから、きっといい思い出が残ると思います。また、いろいろなことが学べると思います。

わたしたちは、わたしたちなりに部活のほんとうの意味を理解していきましょう。みんなとともに、がんばりつづけましょう。